

会議録

会議の名称	令和7年度第2回朝霞市博物館協議会	
開催日時	令和8年2月4日（水） 午後2時～午後3時15分	
開催場所	朝霞市博物館 講座室	
出席者及び欠席者の職・氏名	委員9名（金子幸男会長・榎本洋二副会長・小島孝之委員・櫛田直子委員・杉山正司委員・陶山憲裕委員・飯倉一樹委員・増山智弘委員・渡辺貴子委員） 欠席者1名（吉岡知子委員） 事務局4名（藤原文化財課長兼博物館長・岡部課長補佐・橋詰主任・平野主任）	
議題	1 令和7年度事業報告 2 令和8年度事業計画 3 その他	
会議資料	資料1 令和7年度事業報告 資料2 令和8年度事業計画	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 会長による内容確認		
傍聴者の数	なし	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（岡部補佐）

皆様、定刻となりましたので、令和7年度第2回朝霞市博物館協議会を始めさせていただきます。なお、杉山先生は遅れるという連絡がございました。

私は文化財保護課、課長補佐の岡部と申します。本日の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様にお知らせします。

会議録作成のため、会議録作成支援システムにて録音をさせていただいております。

ご発言の際には、お手元のマイクのスイッチを軽く押した後、ライトが赤く点灯してからお話いただきますようお願いいたします。

なお、発言が終了しましたら、再度スイッチを軽く押し、ライトが消えていることをご確認ください。よろしくお願い申し上げます。

続きまして、金子会長より開会のご挨拶をお願いいたします。

（金子会長）

皆さん、こんにちは。お久しぶりでございます。

だいぶ寒くなっておりますけど、インフルエンザもだいぶ流行っているようでございますので、一つ十分に気をつけていただければと思います。

さて今日は議題が沢山ございますが、前もって資料をお送りしてありますので、その資料を見ていただいたと思いますので、それについてご質問がありましたら、一つよろしくお願いいたします。

それでは、会議を進めてください。

（岡部補佐）

金子会長ありがとうございます。

次に、委員の交代についてご報告いたします。

本年1月21日をもって、前委員の利根川委員より、新たに飯倉委員に交代いたしましたことを、この場をお借りしましてご報告をいたします。

では、飯倉委員より一言ご挨拶の方お願いできればと存じます。

（飯倉委員）

はい、皆様こんにちは。利根川委員の後を継ぎまして市議会の方から来ております飯倉と申します。

私地元の生まれ育ちでございまして、朝霞第2小出の2中出でございまして。ここの博物館にも開館当初からお世話になっております。20年前クラスの友達と来て火おこしをしたのですが、私だけ火がつかなかった思い出をこの場所に来て思い出しました。

今大人となって、しっかりと子供たちが良い体験をして郷土に誇りを持ってもらえる、また大人の方も博物館に愛着を持ってもらえるような、そんなことを一委員としてしっかりと支えていければと思いますので何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。これからよろしくお願いいたします。

（岡部補佐）

飯倉委員、ありがとうございます。

次に、会議資料の確認をさせていただきます。

委員の皆様事前に送付しております資料として資料1、令和7年度事業報告、資料2令和8年度事業計画このほか会議次第でございまして。

そして追加で、本日の当日配布資料としまして、利用統計及びアンケート集計表を机上に配付しております。

会議資料は以上となります。過不足等ございましたら、挙手にてお知らせください。
よろしいでしょうか。

はい。次に、会議の成立についてでございます。朝霞市博物館条例第10条第2項で、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないこととなっております。

本日は吉岡委員から欠席のご連絡をいただいております、10人中9人のご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

それでは、これより議事に入らせていただきます。

朝霞市博物館条例第10条第1項により会長が議長を務めていただくこととなっておりますので、以後の議事進行につきましては金子会長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

(金子会長)

はい。それでは議事に入らせていただく前に、本協議会の議事録の確認ですが、会長であります私に一任させていただいてよろしいでしょうか。

(全員)

はい。

(金子会長)

ありがとうございます。

それでは、これより議事に入らせていただきますが、本日の会議は公開となっておりますので、傍聴者がおりましたら、中に入れていただいております。いかがでしょうか。

(全員)

はい。

(金子会長)

傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

(平野主任)

傍聴人はいません。

(金子会長)

傍聴者はいないということですので、本日の議題、令和7年度事業報告についてよろしくお願い致します。

(藤原課長)

それでは議題1 令和7年度事業報告につきましてご説明をさせていただきます。

博物館長の藤原と申しますどうぞよろしくお願い致します。

なお今回の報告につきましては、令和7年12月末時点の報告となります。また7月に行われております第1回の博物館協議会の際に、上半期の進捗状況につきましてご報告しておりますので、簡潔にお伝えさせていただければと存じます。

お配りしております資料の1になります。初めに、表紙をめくりまして1枚目、令和7年度博物館事業報告です。

令和7年12月末時点の開館日数は219日、入館利用者数は2万981人です。入館利用者数の数え方でございますが、博物館入口のカウンターで入館者数をカウントし、その数字に出張事業等の人数、出張事業等があった場合にはその人数を足した合計を入館利用者数として捉えております。そのため常設展示等の参加人数につきましては、博物館入口のカウンターで数えた人数のみとなっております。

これは展示室内にカウンターを設けておりませんので、入館イコール常設展示をご覧いただいていると解釈するものでございます。

学校団体につきましては4団体、145人となっております。こちらには杉山委員の引率で駿河台大学の学生さんにも博物館見学・実習等でご利用いただきましたものが含まれてお

ります。

また一般団体につきましては、101団体、1,078人のご利用をいただいております。続きまして、常設展示、令和7年度事業報告です。常設展示につきましては、5月中旬から8月末までの期間、美術工芸分野の展示を実施しております。

今年度、特別な状況ですが、企画展は通年10月から11月の秋の期間に実施しているところですが、第38回企画展につきましては、令和7年3月8日土曜日から5月6日火曜日までの春の期間に開催時期を変えて実施しております。

今年度は第39回企画展として、令和7年11月1日から12月14日まで、「江戸時代の旅 川越街道膝折宿」というタイトルで実施しております。

企画展の実施に当たりましては、杉山委員に多大なるご協力をいただきましたことを改めてお礼申し上げる次第です。

そのため、先ほど申しました第38回の企画展と合わせて、今年度は異例でございますが、企画展は春秋の2回開催をしております。

次に、テーマ展示です。テーマ展示は9月に朝霞市の県展作品展。こちらは第73回埼玉県美術展覧会に出品された市内作家の入選作品等を紹介した展示を実施しております。

また、小学3年生の博物館利用事業に合わせて、昔の道具を現在展示しております。後述いたしますが、この展示と合わせて博物館の利用事業として、市内全10校の小学3年生の児童が来館される予定でございます。現時点で2月はかなり来ていただいている状況で、今日も第三小学校の生徒さんは学校が近いので、徒歩で来ていただいております。

次にギャラリー展示ですが、こちらは写真パネル等を中心に展示するもので、今年度は7月から9月にかけて、文化財保護係が実施をした「朝霞発掘調査速報展」を実施いたしました。こちらは昨年度になりますが、令和6年度に発掘調査を実施した遺跡の資料を簡潔に紹介する展示となっております。

なお、2月14日から開催の予定で、「描かれた弥生時代の船 中道・岡台遺跡」の展示を準備中でございます。

次のページをご覧ください。収蔵資料の展示につきましては、1ケース程度で館有資料の紹介を行う展示でございます。現在は入口正面で綿の展示を実施しているのと併せまして、春に独楽の展示と二つの展示を実施いたしました。

次に資料紹介展示ですが、毎年夏に実施しております博物館の学芸員実習、大学生で学芸員を志す学生さんの受け入れ先として実習を実施しておりますが、実習生による展示として、今年度は「博物館実習生から見た戦争資料」というテーマで展示を行っております。

次に講座につきましては、例年同様、歴史講座と古文書講座を実施する予定となっております。古文書講座につきましては2月7日今週の土曜日から、歴史講座につきましては、3月14日から、いずれも今年度中にそれぞれ5回3回で最終回を迎える予定で準備を進めております。

次に、博物館の体験教室、こちらは年5本中、最後の5本目となります。「糸車で糸を紡ぐ」につきまして、3月15日に実施を予定しております。また、夏休みの体験教室が3本、こちらは当館学芸員等が講師となって実施をしております。いずれも大変好評をいただいております。

最後に博学連携事業でございます。こちらは、先ほどのテーマ展示でもお伝えいたしましたが、小学校3年生の博物館利用事業で、市内10校全校の児童にご来館いただく予定でございます。

博物館の利用事業につきましては、共同学習を始める市内の小学校3年生を対象といたしまして、展示室での調べ学習、体験学習室での石臼と縄織い機の体験を行うものとなっております。

学校教育部の教育指導課と連携をいたしまして、移動バスの借り上げを行っていただいております。

先ほど申しましたが、近隣の学校は徒歩で来館しております。遠方の学校につきましては、バスでの来館となっております。

また、先ほど申し上げました博物館実習・学芸員実習につきましては、今年度は8月に5大学、6名の学生の実習を受け入れております。

最後にその他になりますが、令和7年度につきましては、6月に館内燻蒸を実施いたしました。利用者アンケートにつきましては、資料を机上に用意いたしましたが、お手元にあるでしょうか。12月末現在で、回答者数176人、回答率は0.84%、集計表上は0.8%となっておりますが、下二桁まででは0.84%。前年度の同時期と比較しまして、0.2ポイントほど増えております。ちなみに昨年度令和6年度は0.6%の回答率でございました。

この集計表をご覧いただければ詳細な内容は入っておりますが、主なところでお伝えをさせていただきますと、性別ではアンケート回答いただいた方では男女がほぼ同数になっております。年齢的には、小学生の回答が多いほか、60代の方が次に続いて多い状況です。居住地では、市内の方が90名を超える状況のほか、市外の方もかなり多い状況がわかります。実は団体等でも見られるのですが、団体では、高齢者施設ですとか、福祉施設、などは市内のみならず、市外の方が車で来られる状況が多くございます。

交通手段としては徒歩、自転車、それ以上に自家用車で来られる方が非常に多い状況です。来館の目的は、展示を見に来られるほかに、団体等で利用されている理由の一つにもなっている休憩などが多くなっており、水車を回している土日に、図書室、ラウンジなどでゆっくりされている方が多く見受けられます。

当館の印象については、よかった・ためになったという回答と、また来たいというところで、好意的な印象をお持ちになった方が多かった中で、あまり良くなかった・興味を惹かれるものがなかったという回答もございました。目的を持たずにご来館いただく方が多い状況が読み取れるところもございます。

個別の意見では、主だったものを記載しております。中を見ていくと、様々な展示、次に見たい展示の希望が入っていたり、館の中の状況を書いていただいております。私共といたしましても、個別意見を非常に前向きな意見と捉えておりまして、次の展示のヒントとして、取り上げながら、今後の展示のあり方や博物館のあり方を今一度見直す内容として受けとめているところでございます。年間利用者アンケート集計表は簡単にはございませんが、以上でございます。

最後に、こちらも今日の資料として配布した利用統計、令和3年度から令和7年度の12月末現在の資料を配布しております。

現段階での状況で、昨年度の同時期と比較いたしますと、現時点で1,100名ほど多い状況でございます。令和6年の同時期、12月末ですと1万9,878名になりますので、この状況が最後まで続いていただければ、昨年度を超えるような入館者数になると考えているところでございます。令和7年度の状況説明は以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

ただいま、令和7年度の事業報告がございましたが、何かご質問ありますでしょうか。

(飯倉委員)

はい、ではせっくなので何点か伺います。

資料1の内容からお伺いします。

学校団体の方で、小学校3年生が使われているということで説明があったと思います。昨日

も確か第五小学校さんがバスでいらっしゃって見かけたと思うのですが、令和7年度と令和6年度統計の次がずれているところもあるのですが、概ね年明けにこういった事業が行われていることで例年と同じぐらいの水準で20前後くらいになるという見込みでよろしいでしょうか。

(藤原課長)

はい、今のところ、同じぐらいの状況だと見込んでおります。小学生以外にも、先ほど申し上げましたギャラリー展が2月の中旬から始まる予定でございます。また3月に予定をしております体験教室などもございますので、昨年と同様の状況と考えております。

(飯倉委員)

続けて質問させていただきますとこちらの資料1の後段のところだと、いくつか体験教室がありますが、このところで数字によっては0人となっているところがあるのですが、これ資料作成時が12月31日ってことで、年明けてからの数字はまだ反映されていないという認識でまずよろしいでしょうか。

(藤原課長)

はい、その通りでございます。

(飯倉委員)

はい。わかりましたありがとうございます。ちょうど火おこしてのはちょっと動悸が止まらなくなっちゃってどうしようかなと思ったのですが、ぜひ多くの子供たちにそんな体験してほしいなと思います。その上でちょっと今年間利用者アンケートの方を話の流れで伺います。

今これ回答率が0.8%となっておりますが、回答をいただいているのは紙媒体だけなのかどんな媒体でアンケート取っているか教えていただければと思います。

(藤原課長)

はい。アンケートは、紙媒体で自由に書いていただく形で、展示室に入る手前の映像コーナー前に記載台を設けておりまして、そちらで書いていただくかたちをとっております。

(飯倉委員)

はい。結構いろいろな、どの施設も置いておくに関心のある方は書いていただけると思うのですが、なかなか実態全数把握というところは難しいというのは多分どこの施設も同じだと思いますが、例えば書くのは億劫ですけど、今だとQRコードしてGoogleフォームとかありますので、QRコードを読んでもらうとか、あとは今ミュージアムカードを配布されているので、去年もちょっと私ももらいましたけど埴輪の家型埴輪のカード配られたと思うんですね。ああいったものでちょっとせっかく、アンケート答えてもらったらこういったしおりだったりとか、そういった頒布しているものとかって案内することで関心を高めることもするとちょっとこのアンケートの協力地だったりとかせっかく来たんだから何かやってみようということで足がかりにもなるのかなと思いますけど、そういったことは何か検討できたりはいかがでしょうか。

(藤原課長)

はい。ありがとうございます。アンケートは来年以降の博物館における事業のあり方として、総合計画や教育振興基本計画、の指標の一つとなってまいります。アンケートの状況が大変よかった・よかった、この割合が一つの指標になってまいりますので、今いただきました意見等を参考にアンケートの回答率が高まるようなことについては検討してまいりたいと考えております。

(金子会長)

あとどなたか。はい、どうぞ。

(杉山委員)

講演会やらせていただいたのですが、対象がどなたでもとなっていて、終わった後のアンケートに小学生が実は入っていて、ちょっと小学生には難しかったと、当然一般の人を対象とした話しをしていましたので、どなたでもという言い方ちょっとどうなのかなというふうに思いました。

少なくとも高校生以上とかにしていただかないと、どなたでもとなると子供さんも入ってきますのでレベルが大きく違ってしまいますので、その辺今後ご検討いただきたいというふうに思います。

あとアンケートの結果でちょっと私としては非常に参考になったのがあるんですけど、認知経路、情報源ですが人から聞いたが44%、いわゆる口コミですよね。今SNSで結構口コミでそれを参考にして若者たちが政治動向なんかも非常に大きく影響するわけですけど、やっぱり人から直接聞く、要は信頼された人や知人から聞くというのは、情報としてファクトチェックの必要なく、非常に重要なアイテムかなというふうに思っていますので、やはり博物館に来た方、展示も事業もそうですが、満足して帰っていただくということでこの人づてに口コミが広がって行って、この博物館のファンが広がっていくのかなというふうに思っているの、これ非常に良い結果だったなというふうに思っています。また先ほど、飯倉委員からも話された通り、もう少し回収率を上げていただきたいというのは一つです。

あとこの事業報告の中に入っていないですけど、こちら登録博物館となりました。

博物館登録の中でやはり重要なものとして、資料の収集保管等々があると思います。整理保管があると思います。登録博物館の一つの要件、そして博物館法にもありますし、12月に文化庁で示された望ましい博物館設置基準の中にもかなりデジタル化ということが謳われています。

この館としてこういった事業の中で、デジタル化の推進何件中何件出来たとか、あとデータベースの公開、そういったものが行われたといったことを報告の中に入れていただきたいと思っていて、現状どれぐらい進んでいるのかを教えてくださいたいと思います。以上です。

(藤原課長)

はい。感想とそれからご意見、どうもありがとうございます。

まずアンケートにつきましては先ほども、飯倉委員の質問にもお答えさせていただいた通り、当館の指標の一つとなってまいりますので、あらゆる機会を通じて取れるような形を模索していきたいなと思っております。杉山委員にも講師を務めていただきました講演会や講座は、通常のアンケートとは別の参加者アンケートを取ってございまして、こちらは来年度の第1回の会議の方で、7年度の取りまとめとして報告をしたいと考えております。

また、口コミ等々というお話がありましたが、近年それ以外にもいわゆるSNS的な部分の広がりが出ていますので、口コミが出てきた部分は非常に大きいと思っております。

どなたかが来ていただいた、それを聞いて来ていただけということで、まだまだアナログ的な繋がりが生きているというところをこのアンケートの中から認識しているところでございます。

最後に資料のデジタル化、データベース化でございまして、ほとんど進んでいないのが現状でございまして、こちらにつきましては、予算をかけるものかけられないもの両方ございまして、これから進めていくところでございまして、機器を必要とするもの、現在、資料等のカードがアナログなものでございまして、これらをまず手始めにデータベース化していきたいなと思っておりますが、予算の部分、人的な部分で苦慮しておりますけれども、できる限り報告をできるよう、来年度1回目、もしくは途中経過がわかれば第二回でお伝えできるよう形で何とか進めてまいりたいと考えております。現状ではそういう状況でございまして。

(金子会長)

ありがとうございました。あと、どなたかおりませんか。
なければ、次に進ませていただいでよろしいでしょうか。
それでは、議題2の令和8年度事業計画について事務局から説明をお願いいたします。

(藤原課長)

はい。それでは議題の2令和8年度事業計画につきましてご説明いたします。
まず表紙をめくっていただきまして1枚目になります企画展でございます。
企画展につきましては通常に戻りまして、10月から11月中旬までの予定で第40回の
企画展の開催を計画しております。現時点のタイトルが仮称「卓球の歴史」でございます。
今年2026年が卓球の世界大会が初めて開催されて100年を迎える年となることを記
念して担当学芸員が計画しております。

スポーツ分野の展示はこれまで当館でやったことがございません。初めてバラエティーを
どれだけ広げていくかというところはあるかと思いますが、そちらを予定しているところ
でございます。

次にテーマ展示でございます。4月から5月の1ヶ月間を期間といたしまして、現在、丸沼
芸術の森さんと協議をさせていただいて、「丸沼芸術森コレクション展」を計画しておりま
す。また9月には、朝霞市県展作品展の実施を計画しているところでございます。

次にギャラリー展でございます。こちらも先ほど申し上げました令和8年度で4回目とな
ります文化財保護係が行う「朝霞発掘調査速報展」を計画しております。内容としては令和
7年度、今年度に発掘調査を行った速報展になると考えております。

また写真パネルを中心に展示する冬のギャラリー展につきましても2月、今年度と同様に
計画をしているところでございます。

次に最後の段になります収蔵資料紹介展示、こちらも小学3年生の博物館利用事業にあわ
せて、「昔の道具」ということで、今年度とは物を変えながら紹介する予定でございます。

次のページになります。講座につきましては、歴史講座、古文書講座、こちらも今年度同様
に計画しております。両方の講座は非常に人気がございます。内容と対象を変えながら
講師にもお願いしながらやっているものになります。参加人数もなるべく増やした形でと
は考えております。

次に博物館体験教室、こちらも今年度と同様に5回、夏休み体験教室につきましても3回、
計画しております。

博学連携事業につきましては今年度も3年生の事業を行っておりますが、来年度につきま
しても、小学校3年生の博物館利用事業を先ほどの展示と連携させた形で計画をしており
ます。

学芸員実習につきましては、例年同様に8月に1週間の実施を計画しております。

最後になりますが、その他ということで、館内燻蒸につきましても例年同様6月に臨時休館
する形での実施を計画しているところでございます。

内容的な説明は以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

令和8年度の事業計画について、何かご質問ありますでしょうか。

はい、どうぞ。

(飯倉委員)

何点か伺います。まず企画展の方でお伺いします。今回卓球ということで、初めての試みと
いうことでぜひ裾野を広げていることはすごくいいなと思っています。その上でなんです
が、朝霞市内にも総合体育館であったりとかフタバスポーツをはじめスポーツ関連の施設

や、そういった関心が高い方がいらっしゃる施設結構あると思うのですが、今までのこういった博物館の展示は図書館であったりとか公共施設メインでしたけど、せっかくスポーツの話なのでスポーツに関心がある方に裾野を広げて、例えば近隣市のスポーツをやっているところとか、体育館だったりというところにもぜひ告知すると来館者の方がより来ていただけるのではと思いますが、そういった題材に合わせての告知が予算面との兼ね合いもありますけど、そういったことについては何か検討されているものがあれば伺いたいと思います。

(藤原課長)

はい。ご質問ありがとうございます。資料を見ていただきますと、現在計画をしている企画展の関連講演会や体験教室の現時点で担当学芸員が考えている内容が入っているのですが、例えば、体験教室では「卓球で回転をかけてみよう」など、おそらく館内ではできないと考えておりました、その部分も含めて、飯倉委員がおっしゃった体育館やスポーツ施設、そちらにもチラシを配布するなどは非常に有効かなと思いますので、そのような視点も担当学芸員に伝え、今後最終的な準備を検討していく状況にはなっておりますが、広報のあり方の中に入れていきたいと思います。どうもありがとうございます。

(飯倉委員)

はい、ありがとうございます。私も卓球部だったんですけど、卓球って意外とやると難しいんですけど、例えば市内の中学校の部活があったりとか、学校、高校とかそういうところにもぜひ。多分埼玉県で卓球連盟さんとかそういった団体さんもあると思うのでそういうところもぜひ案内されると、来てくださる方の裾野も広がるかなと思うので。

ぜひ、そこは前向きに検討いただければと思います。

その課題のところでテーマ展示、来年度の目玉なのか、丸沼芸術の森のコレクションということでちょうどここに書いてある通り40周年ですけど、本当にたくさんコレクションの一つアンドリューワイエスのコレクションが多分日本でも国際的にも大きなものに入っていると思います。これ多分同時期にたしか東京都美術館の方で開館100周年でワイエス展が同時期にあると思われませんが、よくこういった同じ作家の方だとお互いそのポスター張り合ったりとか周遊でスタンプラリーをやってみましょうだったりとかそういうことをやっていると思うのですが、東京都美術館も公設のところなので、予算だったり様々な制限があるかと思うのですが、せっかく同じ作家今回丸沼さんの方からこういったものを出しているかちょっとわかんない中で恐縮なのですが、例えばハミヨングさんだったりいろんな作家さんがいる中で、そういったところをやっている展示だったりとか四谷のコリアセンターとかでも結構丸沼芸術の森さん展示会で出されているわけですからそういったご縁の裾野を広げて行って1人でも多くの方に来客していただくような形の取り組みをぜひやっていただきたいと思いますが、そういった点の何か検討されていることがあれば伺いたいと思います。

(藤原課長)

はい、ありがとうございます。こちらにつきましては、12月の補正予算にて予算計上いたしまして、現在事業の準備を進めているところですが、事業では丸沼芸術の森さんと朝霞市博物館の役割分担の調整を行っております、私共で埼玉県の博物館連絡協議会を通じチラシやポスターを公的な機関に配布する、あとは文献交換館等がありますので、そちらに送付するのと併せて、丸沼芸術の森さんではギャラリーなどお強いところがあるので、そのように役割分担をしていきたいと思いますというお話をさせていただいております。

それからもう一つ、チラシやポスターは丸沼芸術の森さんでお作りいただくため、今準備されておりますので、私共と丸沼さんで力を合わせてとなれば、恐らく当館の企画展に比べ、より広範囲に広報のチラシやポスター類が及んでいくのではと考えております。

それから資料の取り扱いの部分も最終的なところになってきておりますので、現時点で伺っているところでは、25、6点ぐらいは展示ができるのではないかなと考えておりますが、間もなく確定した数字をお知らせできるかなと考えております。細かい内容につきましては、もうしばらくお待ちいただければと思うのですが、テーマ展示という範疇ではございますが、5周年ごとの記念の展示を当館でやらせていただいているところですので、今回、ハミヨングさんが中心的なプロデュースをやっており、その辺りは詰めながら広範囲に及ぶ形で、市民の皆様と丸沼芸術の森のコレクションを共有したいと言っていたいておりますので、その部分を広げて皆さんに見ていただく機会を設けたいなと思っております。

(金子会長)

ほか、何かございませんでしょうか。

学校関係と非常に博物館の連携が最近取れているようですので、何か学校関係でございませんでしょうか。

(小島委員)

はい。

学校関係というところですね。3年生は毎年昔の道具っていうところで子供たちがお世話になっております。こうやって教室で先生が教科書で話をしたりするよりは、どこかで具体物を見て、そして実際の目で見て学ぶっていうところが本当に子供たちにとっての本物の学びになるのかなと思っておりますので、これからも継続していければいいかなというふうに思っています。

私の方が本当思うことは、やっぱり子供たちが学ぶっていうのは、何て言うか、疑問を持ったことに対して、関心があってその関心があるところで調べて、そこから学び取ったことっていうのは大きく記憶としては残るしそれをさらに人に伝えることでさらにそれが記憶が定着化していくと思っていて、そういう意味ではこの博物館もそういう存在に今もなっていますけど更になっていくことが本当に求められていて、時にはここで得た知識がさらに疑問を持たせるような繰り返し探求ができるような、そんな博物館であるところで体験をしたことで、また新たな疑問が湧いてまたここに来るというところでまた利用が広がっていくのかなって思っています。はい。以上です。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。

あと、第二小学校の先生の方で何かございませんでしょうか。

(渡辺委員)

はい。第二小学校です。今週3年生がお世話になります。インフルエンザ等で学級閉鎖もある中なのですが子供たちは博物館に行って学べるっていうことを楽しみにしております。それでこういった体験活動を中心に、博物館と連携すること大変嬉しく思っています。様々な体験活動をさらに身近にできるといいなというふうに感じております。

でもこの企画展の中のいくつか例えば火おこしだったり勾玉作りとか、そういったところも何か皆でできるといいなあなんていうふうには感じているのですが、なかなかおうちの人と一緒に博物館に行こうってなると少しハードルが上がってくるのかななんて思っているところなので、気軽に学校の方にも足を運んでもらえると嬉しいかなというふうに思っています。以上です。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。

非常に学校と博物館の関係で以前は何校かでやったのが今はだいたい全校ですか。

ほとんど全校やっていると思いますけど。

(藤原課長)

小学校3年生については全校10校来ていただいております。また、出張事業のものは、今年は第一小学校に考古の学芸員がお邪魔して考古関連の内容について、授業という形でお伝えしております。また、今学校で調べ学習の授業がある中で、私も第一小学校に呼ばれて、戦前に大きい大仏が作られる計画があって、大仏の基礎となる部分や型まで作られて、それが戦争によって取り壊されて駄目になってしまったという歴史を知りたいというお話がありました。私が直接伺い、小学生の皆さんはタブレットを持っていますので、映像を撮られまして、子供たちが質問をしてニュース形式で番組を作るという授業の中に呼ばれて伺ったりもしております。

博物館の方が来なくても呼んでいただいても使えるよと、あとは文化財保護係が発掘したもの、学校の校区内、学校を建てるときに出てきたもの、実は10校中7校ほど学校の中に展示ケースを設けてもらって、その中に土器などを展示しておりますが、そちらも利用していただいて、連携をしております。

それに加え、博物館は博物館利用検討委員会という組織を学校と博物館と、教育委員会の指導課が入った連携した組織を持っておりまして、その中で博物館をどのようにすれば使えるだろうということを研究している組織体がございます。コロナ前までは利用された状況を報告書でまとめて冊子にしたり、博物館で使える資料、事業の中で使える資料、どのような資料があるという紹介した資料集を作ったりして、学校とやりとりをしておりましたが、コロナで1回その活動が中断しており、会議体だけは設けておりまして、年度当初に学校から各校何人か先生に来ていただき、先生たちにどういう形で使えるかを検討できる組織体なので、何か希望があったら言ってくださいとお伝えしている中で、学校によっては利用していただいている状況でございます。

私共もできる限り色々なところに行って、私でよければ館長も伺いますし、学芸員も考古の学芸員、歴史分野、古文書がちょっと読めるよっていう学芸員や、今回卓球の企画展を計画している学芸員は専門的な部分は持っていないのですが、教育的な部分に強い学芸員がおりますので、各々の長所や専門性も生かしながら、また全体的であれば私も伺いながら色々な対応ができることをその会議体で伝えさせていただいておりますので、逆にぜひ学校には、我々をうまく使っていただければということも会議体だけではなく校長会や教頭会を通じて、お伝えはさせていただいております。しかしながら、学校も非常に忙しいと、歴史の特に考古の分野はもう年度当初に、時間的に6年生は4月でその授業が終わるところがありますので、時間的な部分もうまく調整できればなどは思っているところです。私共は常に門戸を開きながら、あとは発信をしながら、使っていただける、来ていただいて何でも調べられるというところをPRしていけたらと思っております。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。

やはり小学校の頃からですね、博物館との連携があると、大きくなっていっても、博物館に来る機会がね、行ってみようということになるんじゃないかと思えますけど、ただ博物館ははっきり言って不便なところにありますけど、非常に統計見ると、利用者も増えてきているということで、非常に職員の皆さんのご苦勞がよくわかるような気がいたします。

あと何かございませんでしょうか。

須山さん何かございませんでしょうか。

(陶山委員)

ちょっと一件、今すごい風邪と、またコロナがすごく流行っています。

直接こっちに来ちゃっていますが、本当は手洗いをしたかった。

アルコールが受付の方にしかない。あれはいけないと思います。

直接どの動線に行ってもアルコールとかそういった館内の衛生環境にちょっと油断せずに

取り組んでくださればと感じましたので、よろしくお願いします。

(金子会長)

あと、いかがですか。

芸術の森さんの方から来ていただいておりますので。

(榎本副会長)

はい。一言お話しさせていただきたいと思いますがギャラリー展示ですよね。4月から約1ヶ月実施される。そうですね芸術の森が創立してからだいたい40年なのですけれどもその創立当初から私は関わっておりまして、初期の10年間ぐらいは本当に手作りのどこへ行くんだかもわからないような形でやっている中で芸術の森と市を中心として文化的活動で、市を有意義な場にしたいという希望が代表にもありまして、創立から5年ぐらいで、芸術家はアトリエにすごく困っている状況っていうのはずっと、まあ今もあるのですけれども、それをどういう形にしていこうかっていう、日本国内はあまりそういう活動もないもので、それからしばらく経ってメセナなんていう言葉も出てきて、いろいろな動きがあったのですけれども、やはりそういう機関ですとか機能する場所があるということで、みんなで総勢10人ちょっとでフランスに視察に行ったのですよ。パリの市内にアトリエが点在しています市だったり国だったりアトリエを貸し出すと。そんなことをいろいろと研鑽を積みながら勉強して、今に至るのですけれども今回もその活動していた人間とか、あるいはコレクションで、その40年のひと区切りということで展示をこちらでも、芸術の森でもさせていただくということになるのですが、やはり美術品を鑑賞するだけじゃなくて、やはりそういうものを芸術とはどんどんどんどん形が変わっていきますので。見る側も提供する側も主体性を持って、どういう展開をしていくかっていうことがやっぱり一つの大きな柱になっているのですね。その辺を当初から代表も考えていまして、コレクション一つとっても例えば先ほど来、いろんな形でこちらにも展示したことがありますけれども、膨大なワイエスの例えば作品群であるとか、ただ美しいものとか素晴らしいものに触れて感動するということがなくて、そこに至る経過ですとかそういう形のある意味、博物館とはすごく関連性のあるその資料としての捉え方もあるのですよね。だからそういうことを土台にして、40年ここまで来たのですけれども、次の40年あるいは50年に続くような形を模索しつつ、どういうものになるかっていうことを先ほど館長にもおっしゃっていただいているように、韓国から来ているハミョング氏がいろいろ内容を考えて、今検討しているいろいろ私もちよと加わってやっているのですけれどもそれがまた一つ、博物館と連携して大きな一つの形になって、朝霞は違うぞということに繋がっていくようなものができるかなと思っていまして、日常博物館で企画されて運営されていることも含めて、常に新たな方向性を模索しつつ、ますます発展していけばいいなど、今のお話を伺って、やはりいろいろな形で博物館の職員の方も日夜努力されていますし、今後も期待が持てるなという感想を持っておりますので、よろしくお願いいたします。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。芸術の森さんと博物館はもう長いお付き合いですから、いろいろな作品があると思いますのでこれからも大いにあの協力していただいて、いい展示していただければと思っております。あと何か。

(飯倉委員)

今回来てらっしゃる方学校の方だったり丸沼さんだつたりの中で、結構今図書館さんの方ですと地域の団体で図書館まつりとかいろんな行事されていると思います。今回朝霞市も平場の月という映画が公開されたということで向こうでかなり話題になりましたが、朝霞もあとせつかく博物館もいろいろなところの関わり方があると思うのですが。例えばこちら辺では一夜塚古跡保存会だつたりとか例えば溝沼であれば溝沼獅子舞っていうのは地域

の郷土だったり地域の伝統を守ってらっしゃる団体さんがあって、そういった方々が何か披露する当然祭礼の場所だったりとかするのですが、こういった博物館の中でも保存だったりとかそういった研究ではご支援いただいているのは重々承知しているのですが、そういった形での共同というのも通年として今具体的にこうすればいいというものはないのですが、ぜひそういったところとも連携して多くの方が参加できる博物館に対する関心の裾野を広げていくということは、たとえば公民館さんとかも含めてぜひやっていただきたいなというふうに感じました。ちょっと長くなってすいませんがよろしくをお願いします。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。あと何かございませんでしょうか。

はいどうぞ。

(藤原課長)

はい。ご質問ありがとうございます。博物館は先ほど申しました、文化財課の1係という形で、課にはもう一つ文化財保護係がございまして、そちらが事務事業の中の役割分担として、試掘発掘など、開発行為に伴う試掘発掘を行うのと併せて、文化財の保護、指定文化財の保護の担当をしております。今日出席されている陶山委員も文化財保護審議委員会議の中でリードをしていただいております。

その係が指定文化財、文化財保護団体の補助の担当をしております。先ほど言われました一夜塚古跡保存会、溝沼獅子舞保存会、根岸野謡保存会、この3団体の補助を行っているのと併せて、溝沼獅子舞、根岸野謡については、市の指定文化財として、文化財、団体、それから獅子舞については道具、それらの指定をして保護している中で、旧高橋家住宅が国の重要文化財であり、それを使い、根岸野謡保存会については、謡いを披露していただいたり、溝沼獅子舞については、道具や人揃えなど準備が非常にかかる中で、年に2回春と秋に奉納舞を溝沼氷川神社で行っていただいております。

併せて、第十小学校や第一小学校など溝沼地区の中にある学校も連携をして、コロナの前には舞の披露もしていただいたり、その役割を文化財保護係が担っているという形になります。

博物館では展示事業の年間スケジュール決まっている中なのですが、それらとは別に旧高橋家住宅を使いながら活動していただきますので、その部分を博物館として、いろいろなことができらばと思っております。例えば、一夜塚古跡保存会でいうと、第二小学校が一夜塚を昭和18年に校地拡張に伴って、その当時発掘とは呼ばずに崩したというような言い方をしていた状況の中で、ずっと古跡保存会さんが資料を守っていただいて、その結果、当時発掘された状態の鎧がその後に樹脂含浸という保存を行い、それ以上錆びないように保存をさせていただいたものが残っていたりするということがございます。民間活動として何十年にもわたって資料を守っていただいたということで、古跡保存会の活動が、資料を守っていただいたところがあって、当館でも保護という形で携わり、現時点での役割分担があったりするのですが、こちらで何かできないか、どのようなことができるのかというところは今後考えていかなければと思います。

会場や展示についても一つの手立てであると思うのですが、課内で一緒にやっている係同士ですので、幸い、今年第38回の企画展の「内間木古墳と根岸古墳群」では、根岸古墳群の中で旧一夜塚古墳や柵塚古墳から出土した資料を今回展示ができました。

このような課内コラボレーションもしておりますので、活動団体についても考えられるのかなとは思っています。

例えば指定文化財展ですとか、どういう形になるかわかりませんが、色々な可能性が出てくると思いますので、いただいたご意見も参考にしながら、いろいろなところを踏まえ、先ほど卓球の企画展で申し上げましたが、市民の方はアンケート結果からいろいろなものが見

たいという結果で出てきております。大河ドラマがあれば大河ドラマで出てきた時代のものが見たいと。以前「鎌倉殿の13人」が放送されたときには、鎌倉時代の朝霞はどうなっていたというふうなアンケートもあり、やはりバラエティに富んだ展示を求められている、そこにも合致してくるのかなと思いますので、何かを除くのではなく、いろいろな可能性を考えながら、あとは先ほど申しあげました学芸員の専攻等も考慮しながら考えていきたいなと思っております。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

職員が少ない中で、アンケートであれやこれやという注文ばかりが来て、それを全部やるというのは大変だと思いますけど、非常に人数少ない中で、博物館だけじゃないですが図書館も公民館もそうですが、みんな少ない中で職員が頑張っているなっているのはよくわかりますので、またよろしく願いいたします。

あと何か先生の方からはよろしいですか。

(杉山委員)

あの企画展の卓球の関係なのですが、やはりこの地域博物館として朝霞とどういう関わりがあるのか、いわゆる地域の地元愛を培うためには、そのテーマというのはやはり地元に関わりの関係があると思うのですが、実際どういうところがあるのか教えていただければと思います。

(藤原課長)

はい。この卓球の企画を担当学芸員から持ちかけられたときに、私から学芸員の方に対して、いくつか注文を出させてもらいました。その中で一つとして競技の歴史についてはまずきちんと押さえてほしい。卓球というスポーツがどういう発祥で、どのように日本で広まっていったのか、そこはまず押さえないと伝えたのと、卓球のルールって以前と変わっているよねと話をしました。飯倉委員も卓球部だったとお聞きしたのですが、私も少しだけ中学生のときに卓球をかじったことがあります。そのときの道具と今の道具、それからユニフォーム、いろいろなものが全然違う。ラケットも違えばラケットについているラバーも昔は白とオレンジでオレンジを使うのはほとんどなかった。卓球台も何か黒い緑色の濃いようなものだったのですが、今テレビを見ると、すごく青だったり、いろいろな色のもがある。そのような中でルールの変遷、あとは道具、ユニフォームの変遷、これらも押さえないと。

それからもう一つは、卓球の大会っていろいろあって、私が卓球をかじったときには、「昔日本は強かった」というのをよくスポーツ用品店の店主さんから伝えられて、それがこんなに弱くなったという話がありました。卓球の大会がオリンピックだけでなく、どのような大会があるかわからないのでそれも押さえない。今、杉山委員もおっしゃっていましたが、本市とどう関わりがあるのかと、市内での部活動の状況、有名な選手や団体などがあるのか、それらを必ず押さえないと、できれば、有名な選手がいた形跡があったり、何か本市で大きい大会が開かれたり、関わりがあるといいよねということで、それらを全部押さえてこそ、初めて本市との関わりという形で卓球がより身近になると。

部活動について調べれば、当然5校中学校がありますが、今でも今これだけ部活動が分散されている中でも卓球は各校に部活動としてあるというところまでは今の状況でわかっていて、そこをもっと細かく調べてくれと伝えております。

全国の自衛隊卓球大会が本市の総合体育館をずっと使用していたとか、何回かやられているとかまではわかっているということで、現時点で調べた資料をもらってはいるのですが、その中でより本市の皆さんが、卓球というものが何故博物館で開かれたかというところが、先ほど申しあげました世界大会が開かれて100年以外に本市との卓球の関わり、これらを項

目としてきちんと出せるような形に何とか調べてくれと注文を出させていただいております。

次回の会議の時にそれがあったのかなかったのかも含めて、卓球の展示をやるというその理由づけが皆様にきちんとお伝えできればいいなというふうに思っております。

現時点では以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございます。

あと何か、はい、はいどうぞ。

(増山委員)

増山です。よろしくお願ひいたします。

今回の資料見させていただいたときに、やはりこの企画展のテーマというのが一番目に留まりました。

いろんな博物館の企画展とか、特別展のテーマを見ても、なかなか見覚えがないというか、初めて見るようなテーマでおおっている感じがしたのですが、その上で3点お伺いしたいところがありまして、ただ一つ今杉山委員の方から、質問が出たこととほぼ同じことでこの企画を博物館でやる意義理由ってというのがどこなかっていうことが知りたいってということ、それから第二には、こういった企画展とかをやる上では、その展示の核になるものを主となるものというのがあって、そこから膨らませていくような感じじゃないかと思うのですけれども、なかなかこの展示だと、どういうものがその展示の核になるのかなってところが、知りたいなというところと、それから第三には、前2回の内間木古墳群であったり、膝折宿っていうものは、まさに地域博物館の王道というような感じで、その地元のローカルなところをやるので地元から来ていただくことを念頭に置いているのではないかなと思うのですけれども。このテーマだとより来館層が広域性を帯びてくるのではないかなというふうに思うので、そこら辺の宣伝広報っていうのですかその辺りがどのようになるのかなという興味がありますので、以上3点をお伺いさせていただければと思います。第1点はもうほぼ答えていただいたので、なくても大丈夫ですが、はい、お願ひいたします。

(藤原課長)

はい。今増山委員からお話がありましたこの企画展のテーマは、過去企画展を今回で40回を重ねるわけですが、この博物館ができた平成9年以降の数年間においては、当館は今、展示の4本柱というふうに私達呼んでおりますけれども、考古、歴史、民俗、美術工芸、この4分野の学芸員プラス教育普及の学芸員がおりまして、数年間はこの分野、各それぞれの学芸員が自分たちの専門性を生かした展示というのができた時代がございました。

以降、美術工芸分野の学芸員が欠け、最後に民俗の学芸員が欠け、ということで、開館当初のようなバラエティに富んだ内容の、例えば考古や美術、歴史という形で、同じ分野が続かないようなテーマで何年間かは保てた時代があったのですが、以降そういうことができなくなってきている中でも、開館からの10年間ぐらいは、おそらく今はできないような展示ができました。今展示室では「昔の道具」が展示されているのですが、昔の道具ということで提示されておりますが、後ろ側に1ケースだけ学校給食の展示ケースを置いています。それは、以前行った「学校給食」の資料の展示です。それからおもちゃの展示をやったり、「朝霞と鉄道」ということで、鉄道展を実施しました。本市には武蔵野線と東武東上線が通っているということで、その展示をやったり、今回の川越街道膝折宿の前身となった「旅」の展示やったり、絵馬の展示をやったりということで、非常にバラエティに富んだ時代がございました。それが学芸員の専攻が偏って作る中で、バラエティさ、柔軟性みたいなものを失っていったようなところがございます。アンケートの中でいろいろなものが見たいというお声もある中で、学芸員がどういう形で展示をやっていったらよいのか、展示の意義とい

うか担当学芸員のモチベーションみたいなものを考える中で、実は今回担当している学芸員が卓球のチームに所属をしており、自分も教えていたりする中で、もしそういう企画ができたならモチベーションが上がるという部分もあって、企画を告げられた際に、先ほど申し上げましたいろいろなことをまず考えていかなきゃいけないという課題を与えたうえでやっていく。

その中で、核となる展示、実際にどのような資料になってくるのだろうか。それは今その学芸員が見いだしているところで、それが道具なのか、あるいはルールなのか、また、世界的な大会なのか、まだ私達のところでも、核となるものを資料で出したいというところまで来ていない状況ではあるのですが、一つとして、やはり担当学芸員が「こういう展示がやりたい」と、「こういうものを研究しながらやっていきたい」という思いが一つのモチベーションになっているのは間違いないのかなと思っています。

それが専攻がある学芸員であっても違うことをやりたいと、実は鉄道展をやった学芸員は考古の学芸員でした。それからカメラをやった学芸員も考古の学芸員でした。それから給食をやった学芸員は歴史の学芸員、自分が持っている専攻とは違うものもやりたいというところをどうやら持つみたいなんです。ですから、一つのスタートとしては、本人のモチベーション、こういうことをやってみたい、挑戦したいという部分が非常に大きいのかなと。今回は掴み始めが卓球であったのかなと思っています。意義それから核、同じ形で伝えていくとすると、一つは本人が何をどういうふうにやりたいかで、その中で何を核として見つけていくかというところを、今は課題を与えながら見つけさせている状況です。

プラスそのローカルから広がりというところの中では、おっしゃっていただいた通り、地元のものをやれば当然地元の方に見ていただける。プラス鉄道展をやったときにはおそらく統計上、過去最高の入館者数を記録しているかと思うのですが、そのときには、当時タイトーというゲーム会社がありますが、「電車でGO」というアーケードゲームを2台お借りすることができまして、それを自由に使ってくださいますということで、ギャラリーの奥に置いて来館者に自由に遊んでいただきました。そうしましたら全国から鉄道ファンが来ていただきまして、ローカルだけではない、関東それから全国的な広がりを持って、当時SNS等がなかった時代ですけれども、何か口コミで「あそこで鉄道展やってるぞ」と広まり、鉄道模型も色々と、当時若干お金がありましたので、Nゲージではなく大きめのHOゲージという非常に大きい模型を東武東上線の車両編成みたいな形に入れてみたり、カメラ展も、コレクターの方に協力いただいて、日本のカメラはAからZまでメーカー名がアルファベットにするとあったという時代があり、多く機種を揃えたり、コレクション的な展示もやったり、給食展では、食品サンプルで、当時の給食を再現したりと、そういうことをやっているのですが、その広がりということでは、今回、例えば卓球の展示をやるとなったときには当然、各協会やスポーツの団体に広げて広報していく、そういうところも見えていただけるかなという期待はしております。

先ほど申しました満足度が私共の指標の一つになっているのですが、逆にこういった会議体では入館者がどれだけ増えたのかということも目で見える指標の一つであるかと思っています。

ただ、初めてのケースになりますので、いまだ未定な部分はあるのですが、何とか皆さんに良い報告ができるような形に、私どもで頑張っていきたいなと思っています。

したがって、ローカルに限らず広げていく、その視点も過去からいろいろなバラエティに富んだ展示をやっている中では、ある意味必要なのかなと思っています。

はい。以上でございます。

(金子会長)

はい。ありがとうございました。

時間も大分経過しましたので、質問ももう全部出たようでございますので、次へ移らせてもらってよろしいでしょうか。

それでは、その他議題の3について事務局から何かございましたらお願いいたします。

(橋詰主任)

事務局より連絡が3点ほどございまして、まず1点目ですが、会議録の作成につきましては、これまで通り事務局の方で案を作成しまして、金子会長に内容を確認していただいたものを確定稿として、皆様に郵送で送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。2点目ですが、次回の協議会については、本年10月頃の開催を予定しておりますので、日程場所詳細につきましては、改めてご連絡差し上げたいと思いますので、よろしくお願ひします。

最後に3点目ですが、もうご提出していただいている方もいらっしゃいますが、事前にお配りした資料の中に、今後の資料の提供についてということで、メールか紙媒体かということで質問させていただいていると思いますが、この後会議終了後に回収させていただければと思います。

事務局からは以上です。

(杉山委員)

はい。ちょっとその件で、どちらでもいいのですが、結構メールで送られる場合は、大抵は現場でタブレットが配られていてタブレットで確認するっていう形になるのですが、そういったことは可能なのでしょうか。あとはもう一つのやり方としては、自宅にてメールで確認して、当日現物が置かれているかの大抵どちらかになるのですが、それはどういった形になるのでしょうか。いずれにしろ、郵送料の分は節約できるかと思うのですが、タブレットか現物が置かれるかどちらかお伺いできればと思います。

(飯倉委員)

はい、関連で私はメールの方ですけど、例えば自家用のパソコンを持ってくればデータをダウンロードして見れたりするので、そういった形で持ち込みのタブレットやパソコンということも一応あわせてご答弁いただくと、次回以降も持ってきやすいと思うので、ぜひ。

(橋詰主任)

はい。現状予算等の兼ね合いもありまして、タブレットをご用意するのは難しく、当日机上に書類をご用意させていただくっていう形になってしまうと思いますが、もしよろしければご自身でパソコン等をご持参していただければ、そちらは大変助かります。

(金子会長)

はい。それでは、意見の方もだいたい出尽くしたようでございますので、本日の全体会議を通じて、最後に何かこれだけはというのがなければ、本日の議題、全て終了いたしましたので、議長の席を下ろさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(岡部補佐)

はい。以上をもちまして、令和7年度第2回朝霞市博物館協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。